

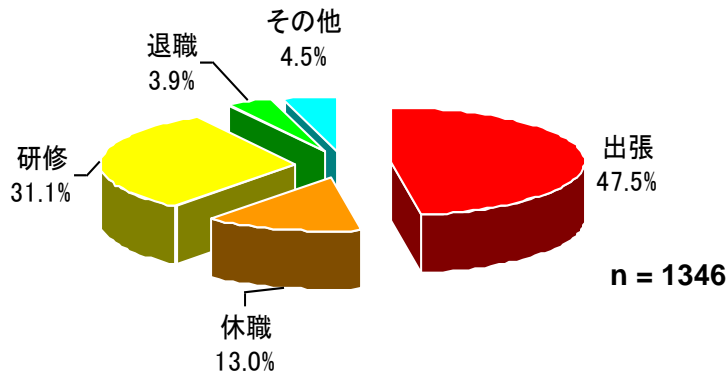
I. 全体結果

*すべての集計は無回答者を除いて行った

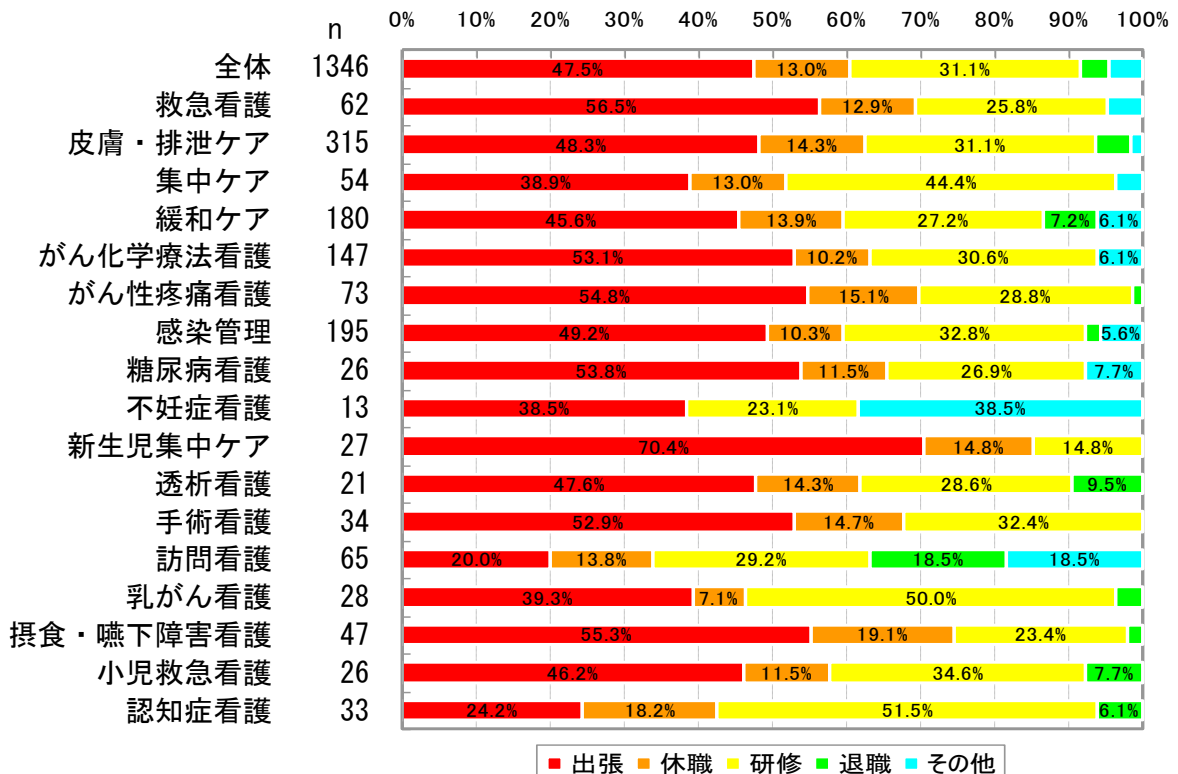
1. 認定看護師教育機関在学中について

1) 勤務形態

(1) 認定者全体



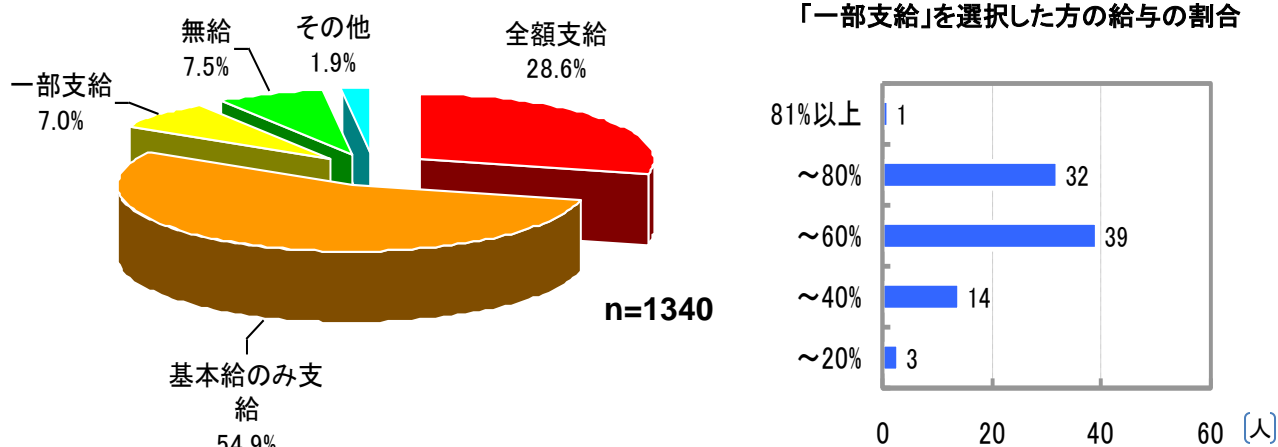
<図1. 認定者全体の在学中の勤務形態(全体)>



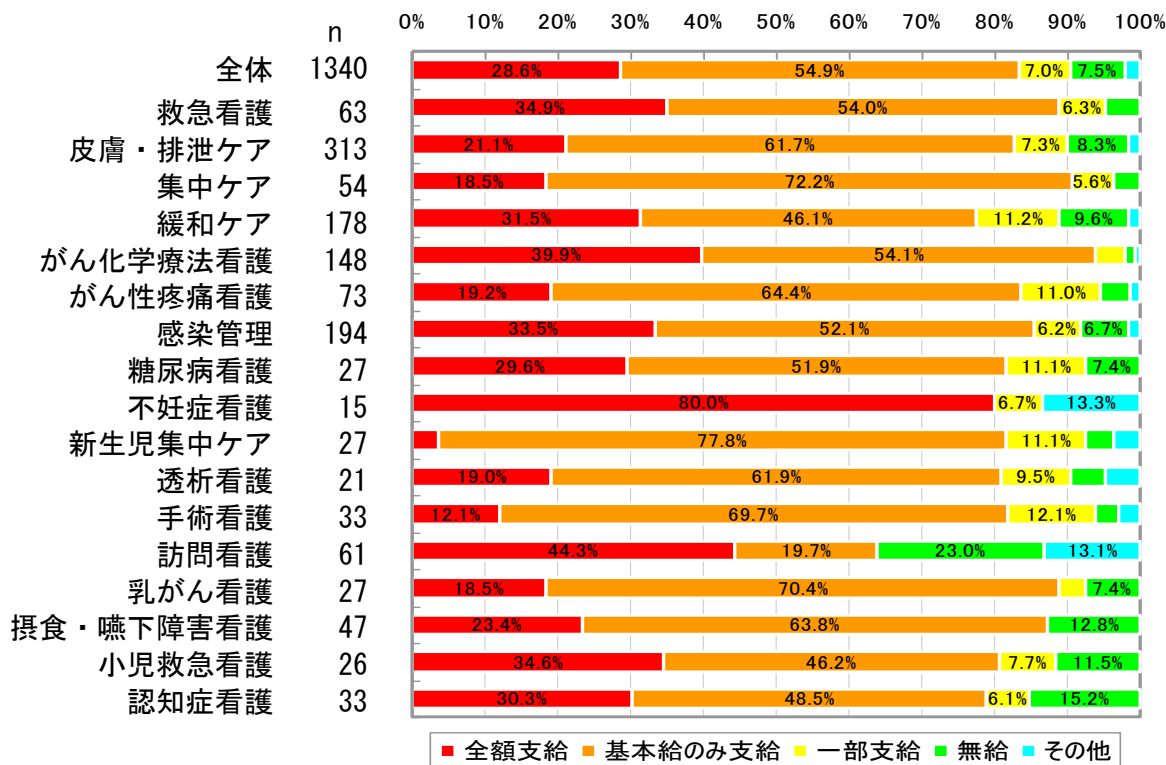
<図2. 認定者全体の在学中の勤務形態(分野別)>

認定看護師教育課程在学中の勤務形態は、全体では、「出張」扱いが47.5%、次いで「研修」扱いが31.1%であった。一方、「休職」扱いは13.0%、退職して入学した者は3.9%であった(図1)。分野別にみると「出張」扱いが最も多かったのは「新生児集中ケア」で70.4%、「研修」扱いが最も多かったのは、「認知症看護」で51.5%、「休職」扱いが最も多かったのは、「摂食・嚥下障害看護」で19.1%、退職して入学した者が最も多かったのは「訪問看護」で18.5%であった(図2)。

2) 給与の支給状況



<図5. 在学中の給与の支給状況(全体)>

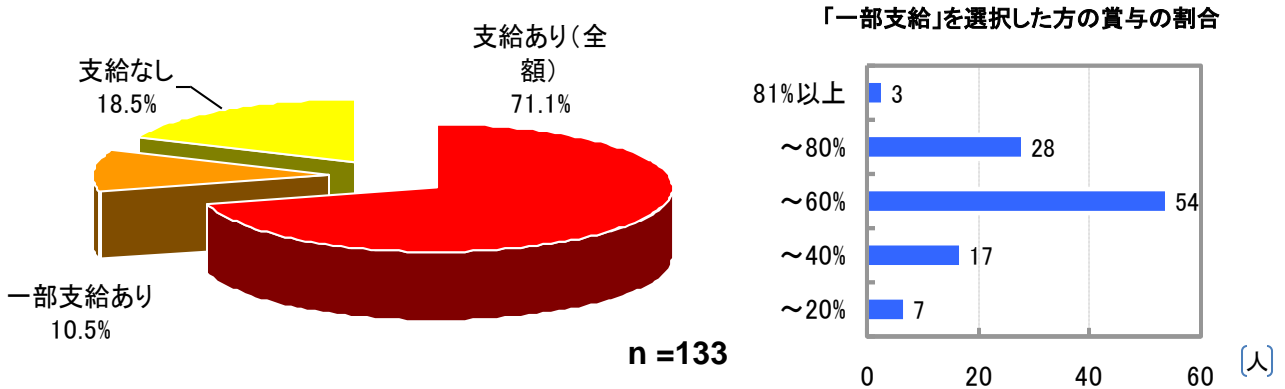


<図6. 在学中の給与の支給状況(分野別)>

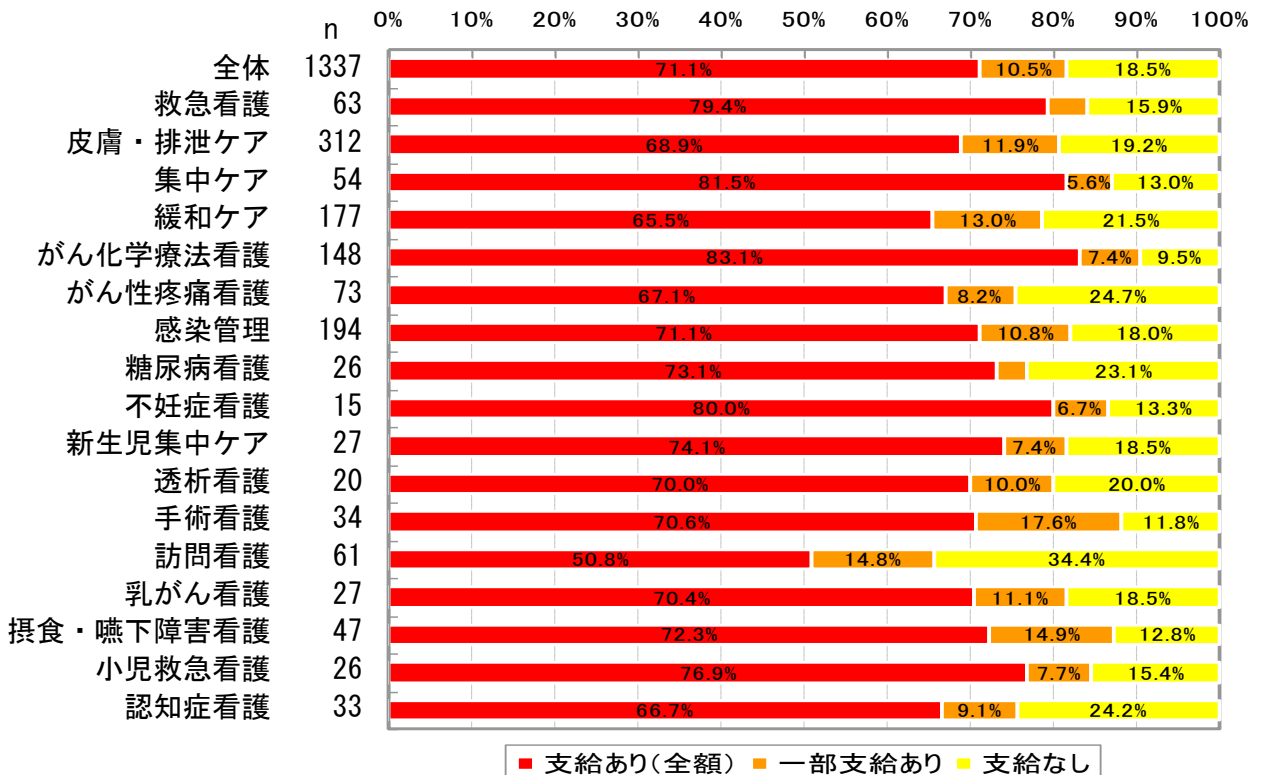
認定看護師教育課程在学中の給与の支給状況は、全体では、「基本給のみ支給」が54.9%、次いで「全額支給」が28.6%、「一部支給」が7.0%であった(図5)。

分野別にみると、「全額支給」は「不妊症看護」が80%で最も多かった。「訪問看護」では「全額支給」は「不妊症看護」に次いで44.3%であったが、「無給」も23.0%で最も多かった。「訪問看護」に次いで「無給」が多かったのは「認知症看護」で15.2%であった(図6)。

3) 賞与の支給状況



<図7. 在学中の賞与の支給状況(全体)>

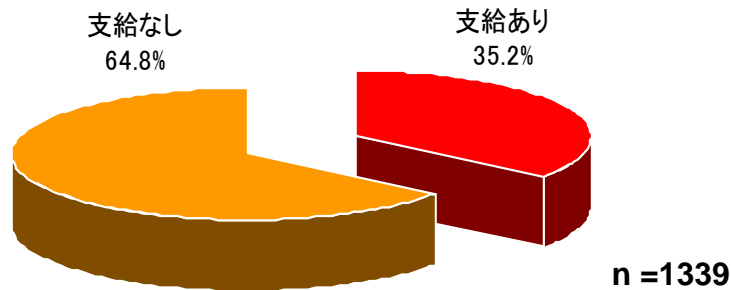


<図8. 在学中の賞与の支給状況(分野別)>

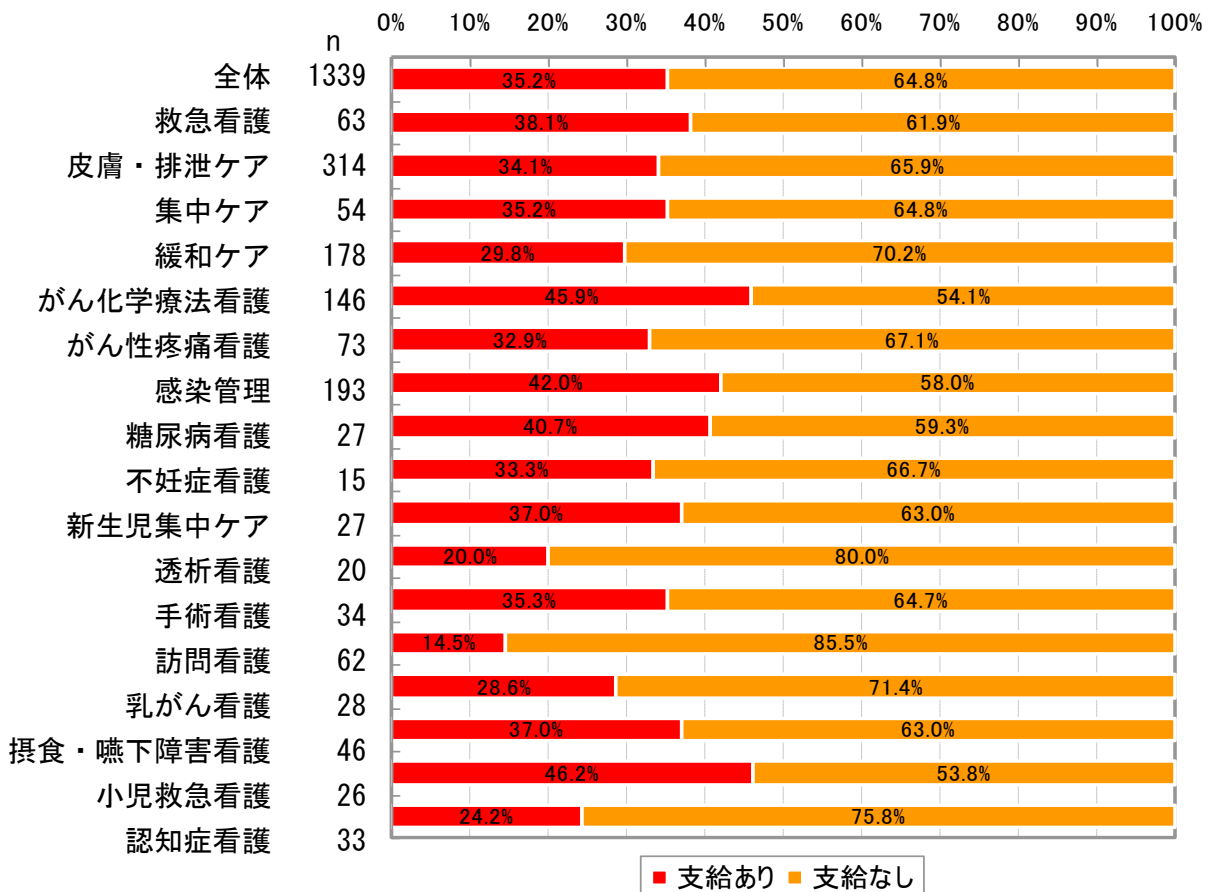
認定看護師教育課程在学中の賞与の支給状況は、全体では、「支給あり(全額)」が71.1%、「一部支給あり」が10.5%、「支給なし」が18.5%であった(図7)。

分野別にみると「支給あり(全額)」は「がん化学療法看護」が83.1%で最も多く、「支給なし」は「訪問看護」が34.4%で最も多く、次いで「がん性疼痛看護」が24.7%、「認知症看護」が24.2%であった。(図8)。

4) 特別手当(赴任旅費等)の支給状況



<図9. 在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況(全体)>

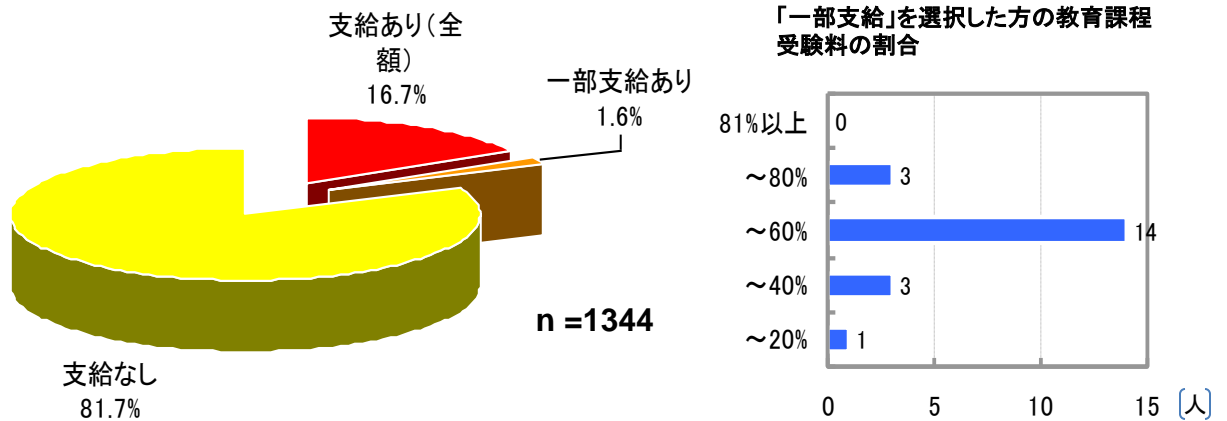


<図10. 在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況(分野別)>

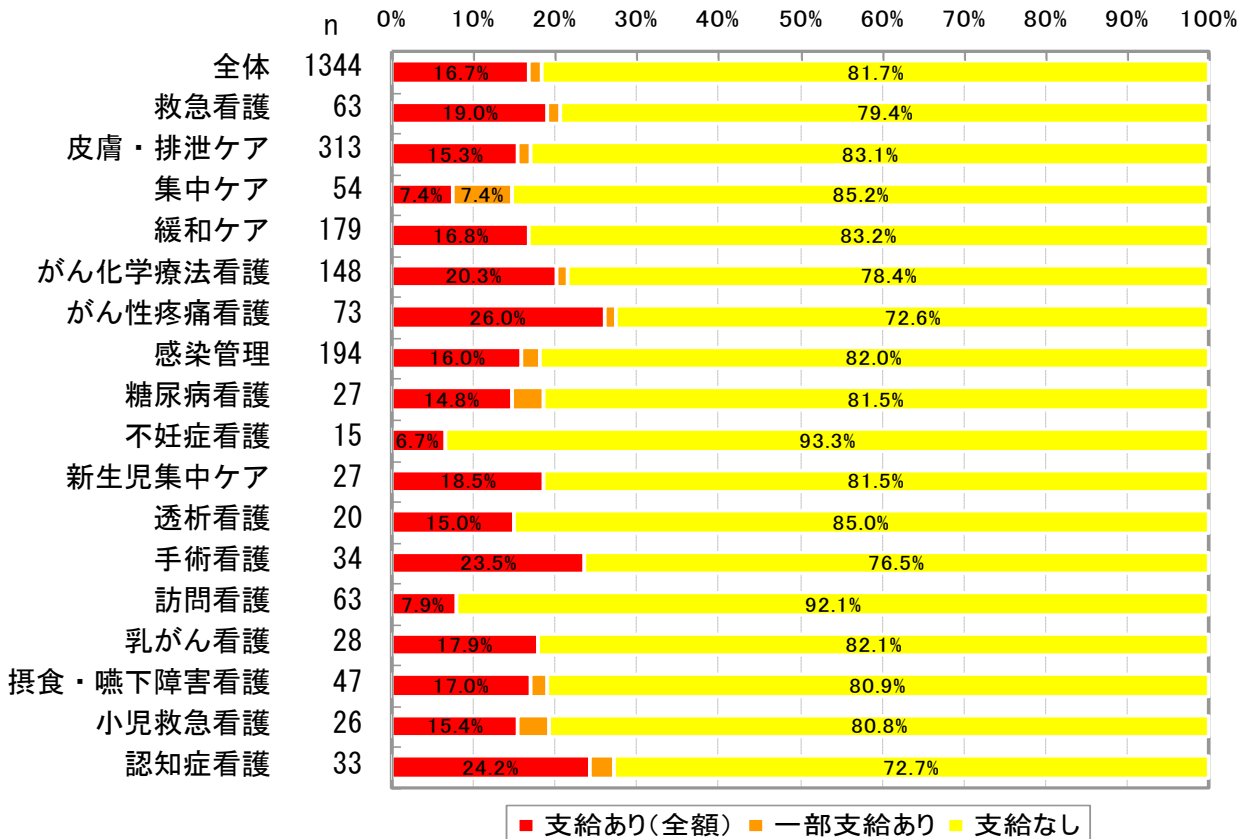
認定看護師教育課程在学中の特別手当(赴任旅費等)の支給状況は、全体では、「支給あり」が35.2%、「支給なし」が64.8%であった(図9)。

分野別にみると「支給あり」は「がん化学療法看護」が45.9%で最も多く、「支給なし」は「訪問看護」が34%で最も多く、次いで「認知症看護」が24.2%であった(図10)。

5) 所属施設による教育課程受験料の支給状況



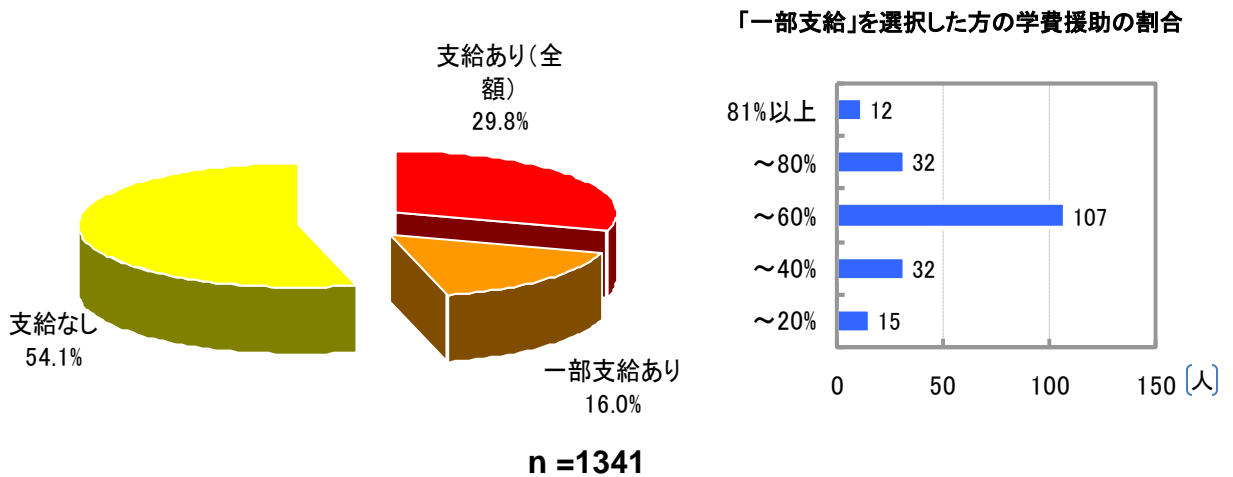
<図11. 在学中の教育課程受験料の支給状況(全体)>



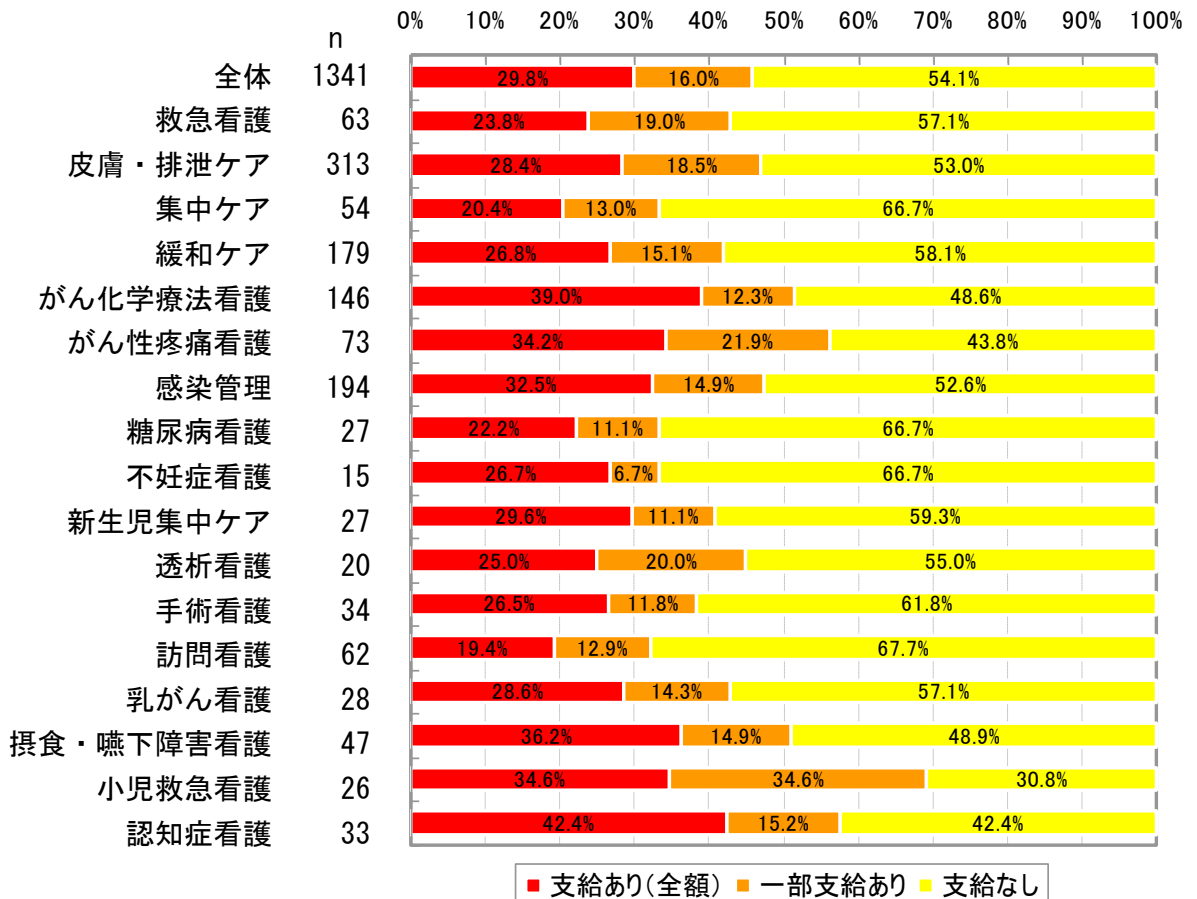
<図12. 在学中の教育課程受験料の支給状況(分界別)>

認定看護師教育課程在学中の、所属施設による教育課程受験料の支給状況は、全体では81.7%が「支給なし」、「全額支給」は16.7%、「一部支給」は1.6%であった(図11)。分界別にみると、「支給あり(全額)」は、「がん性疼痛看護」が26.0%で最も多く、次いで「認知症看護」が24.2%、「手術看護」が23.5%であった(図12)。

6) 所属施設による入学金や研修費など学費援助の有無



<図13. 在学中の学費援助の有無(全体)>

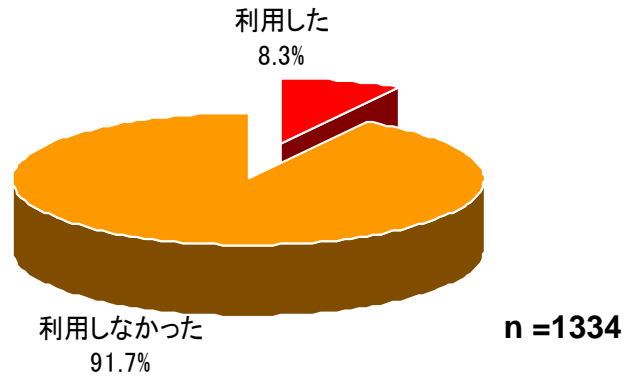


<図14. 在学中の学費援助の有無(分野別)>

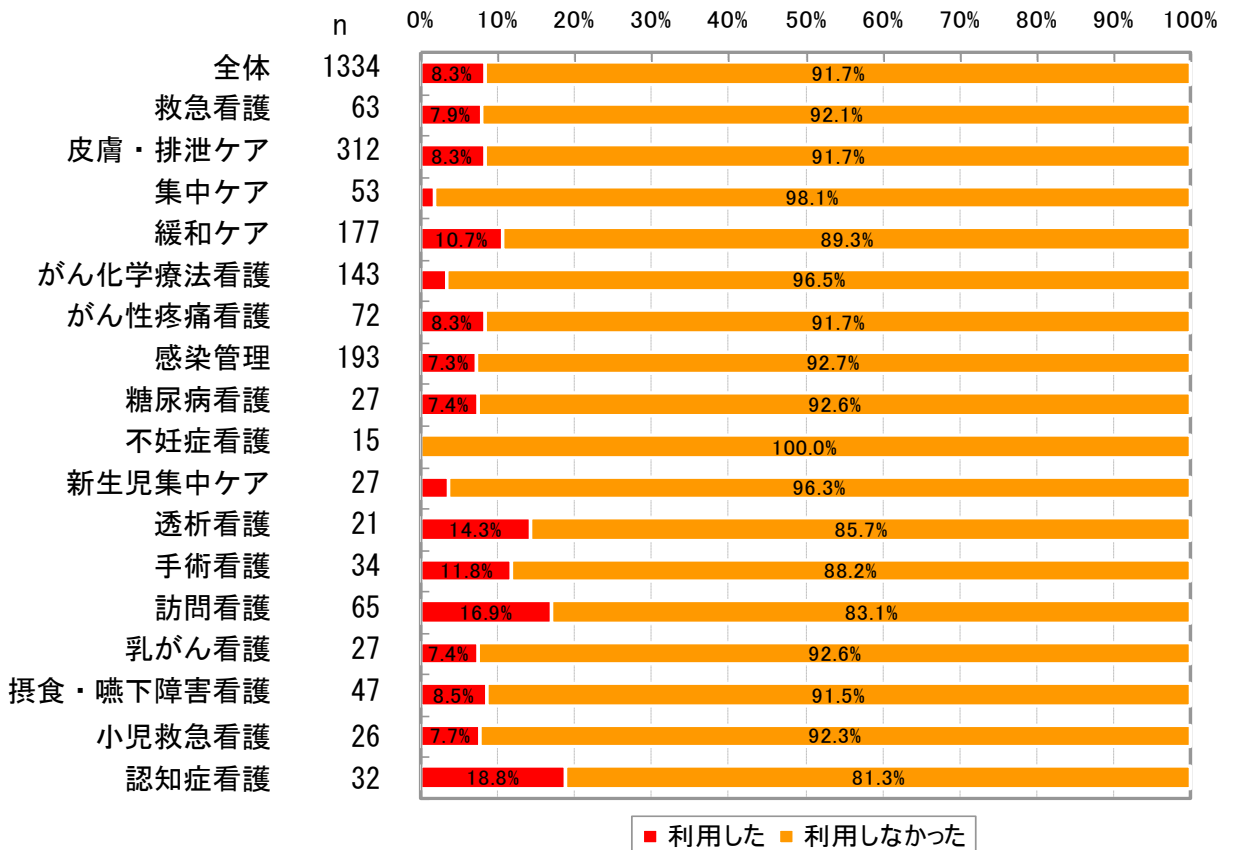
認定看護師教育課程在学中の、所属施設による入学金や研修費など学費援助の有無は、全体では、「支給なし」が54.1%、「支給あり(全額)」が29.8%、「一部支給あり」が16.0%であった(図13)。

分野別にみると、「支給あり(全額)」は「認知症看護」が42.4%で最も多く次いで「がん化学療法看護」が39.0%であった。「支給あり(全額)」 「一部支給あり」を合わせた割合は「小児救急看護」で最も多く、69.2%であった(図14)。

2. 認定看護師教育課程在学中の奨学金利用状況



<図15. 在学中の奨学金の利用(全体)>



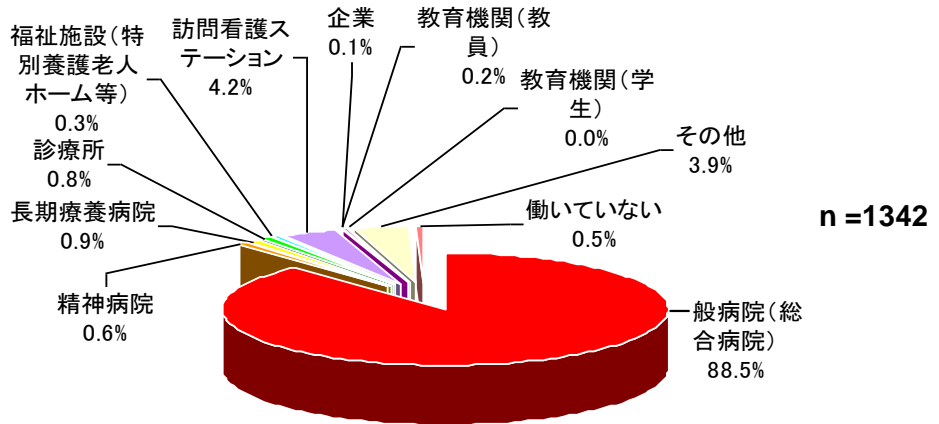
<図16. 在学中の奨学金の利用(分野別)>

認定看護師教育課程在学中の奨学金の利用状況は、全体では「利用しなかった」が91.7%であった(図15)。

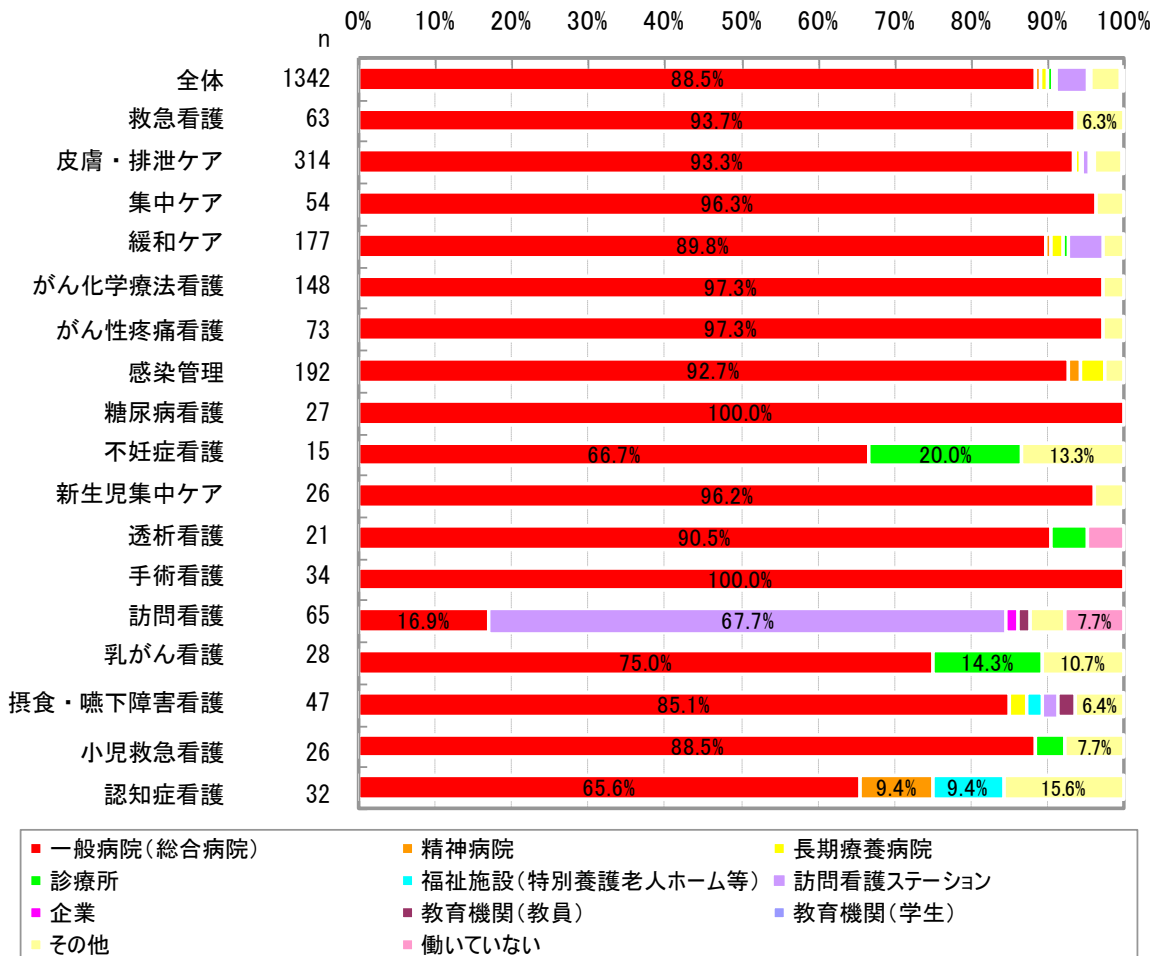
分野別にみると「利用した」割合が高いのは「認知症看護」が18.8%で最も多く、次いで「訪問看護」が16.9%、「透析看護」が14.3%、「手術看護」が11.8%、「緩和ケア」が10.7%であった(図16)。

3. 現在の所属施設について

1) 所属施設の種類



<図17. 所属施設の種類(全体)>

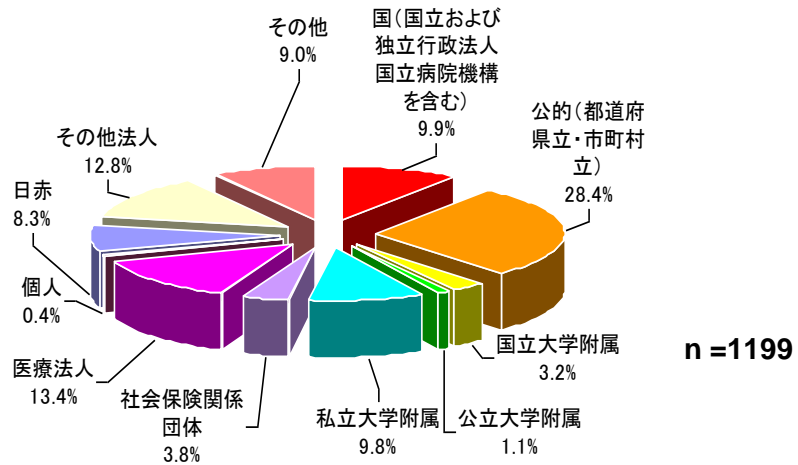


<図18. 所属施設の種類(分野別)>

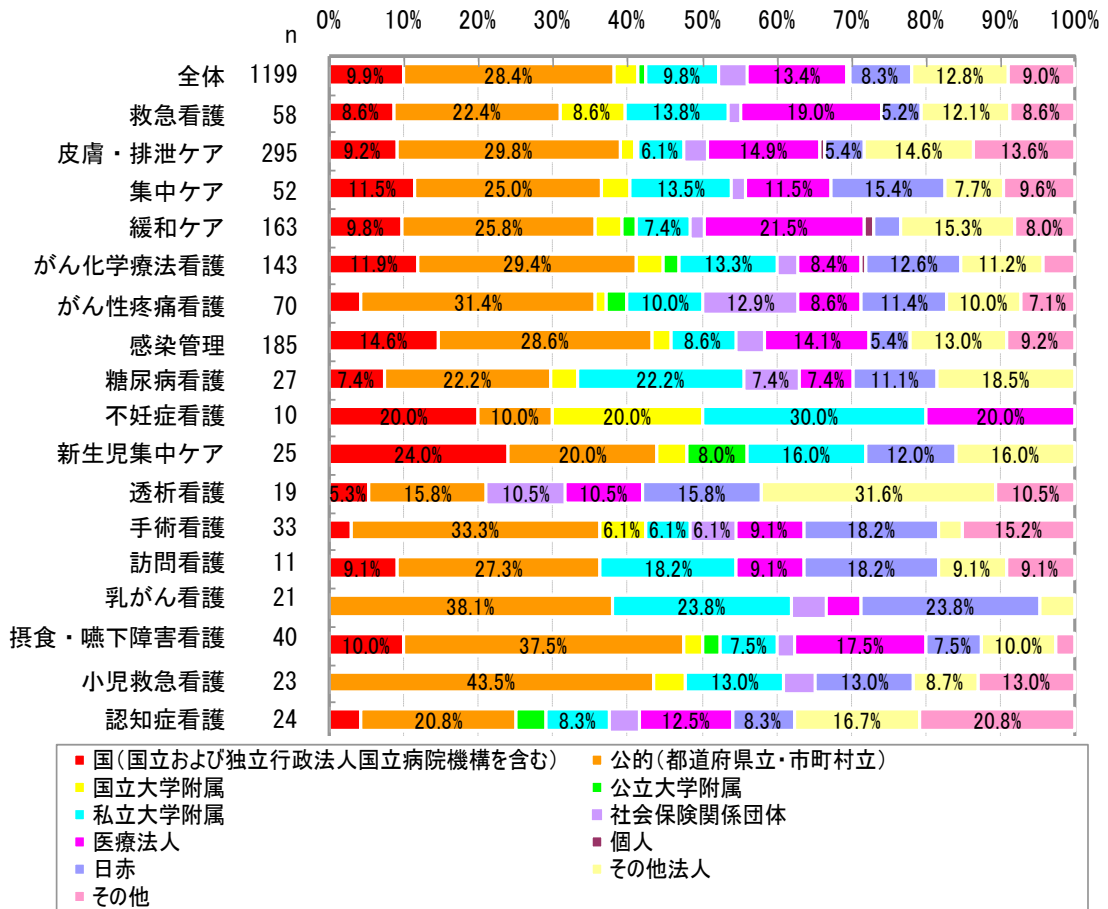
認定者全体の現在の所属施設は、「一般病院(総合病院)」が88.5%で最も多かった。次いで「訪問看護ステーション」が4%(65名)であり、そのうち7割弱の44名が「訪問看護」分野であった(図17、18)。

分野別にみると、「不妊症看護」の20.0%、「乳がん看護」の14.3%は「診療所」の勤務であった(図18)。

2) 病院(「一般病院(総合病院)」「精神病院」「長期療養病院」)勤務者の所属施設の設置主体



<図19. 病院勤務者の所属施設の設置主体(全体)>

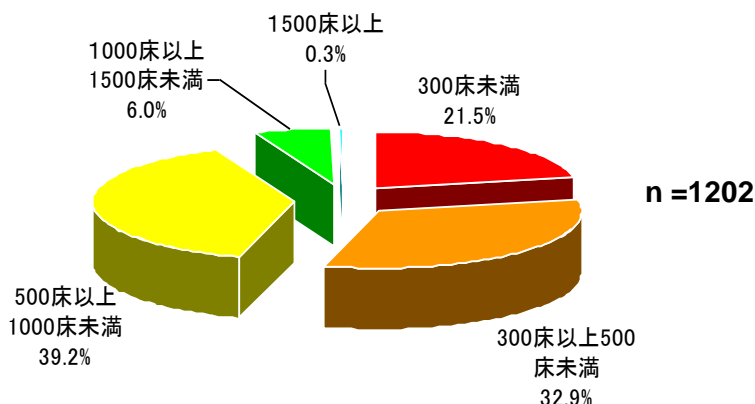


<図20. 病院勤務者の所属施設の設置主体(分野別)>

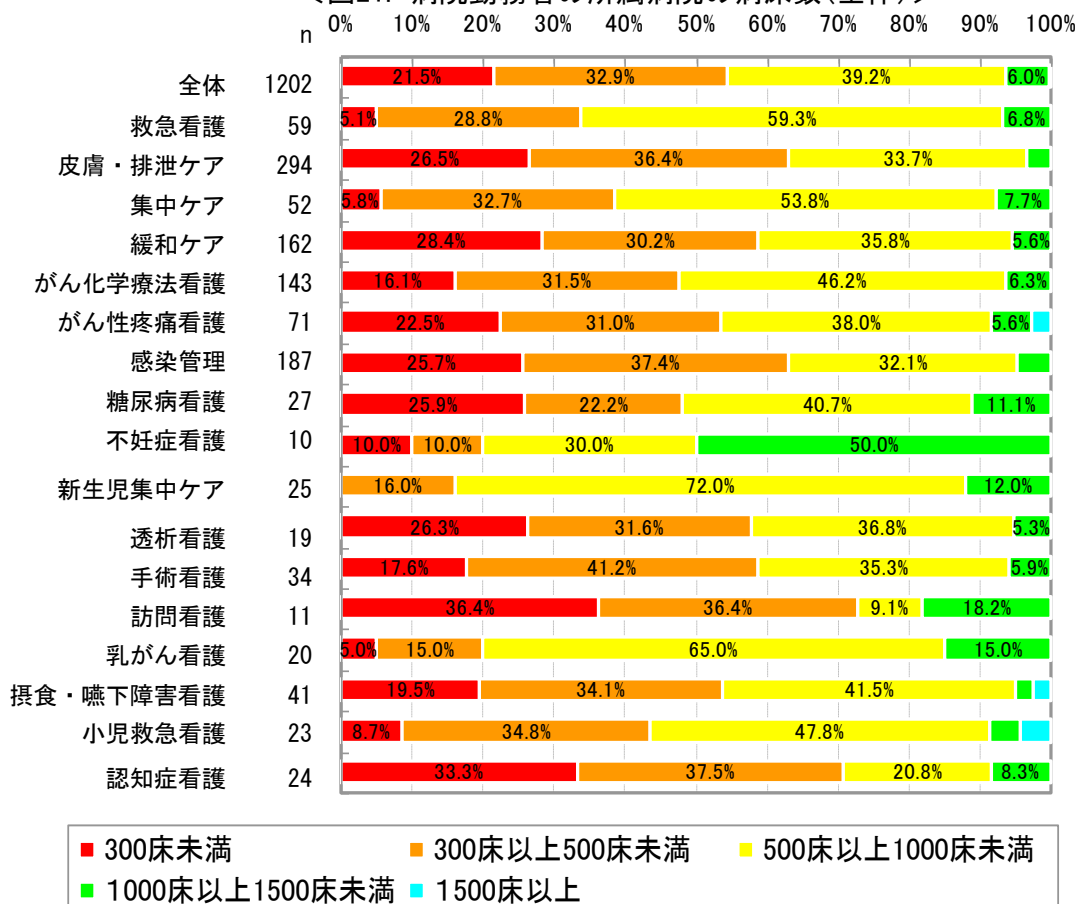
病院勤務者の所属施設の設置主体は、「公的(都道府県立・市町村立)」が28.4%で最も多く、次いで、「医療法人」が13.4%、「その他法人」が12.8%、「国(国立および独立行政法人国立病院機構を含む)」が9.9%、「私立大学附属」が9.8%、「日赤」が8.3%であった(図19)。

分野別にみると、「不妊症看護」は、所属施設の設置主体の割合が「国公立」と「私立および医療法人」で50%ずつであった。「認知症看護」は所属施設の設置主体のうち、国公立の割合が他分野と比較して少なかった(図20)。

3) 病院(「一般病院(総合病院)」「精神病院」「長期療養病院」)勤務者の所属施設の病床数



<図21. 病院勤務者の所属病院の病床数(全体)>



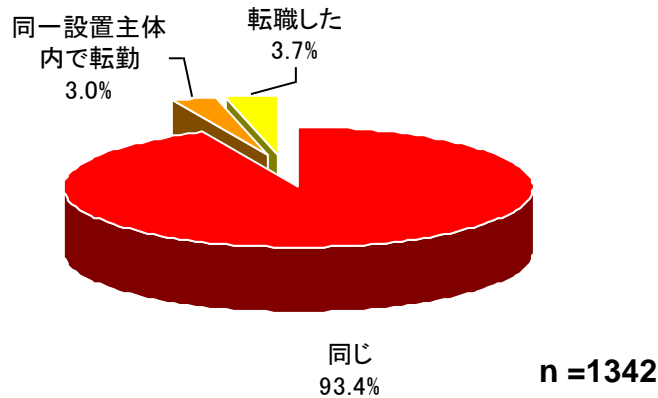
<図22. 病院勤務者の所属病院の病床数(分野別)>

病院勤務者の所属施設の病床数は、「500床以上1000床未満」が39.2%で最も多く、次いで「300床以上500床未満」の32.9%、「300床未満」の21.5%であった(図21)。

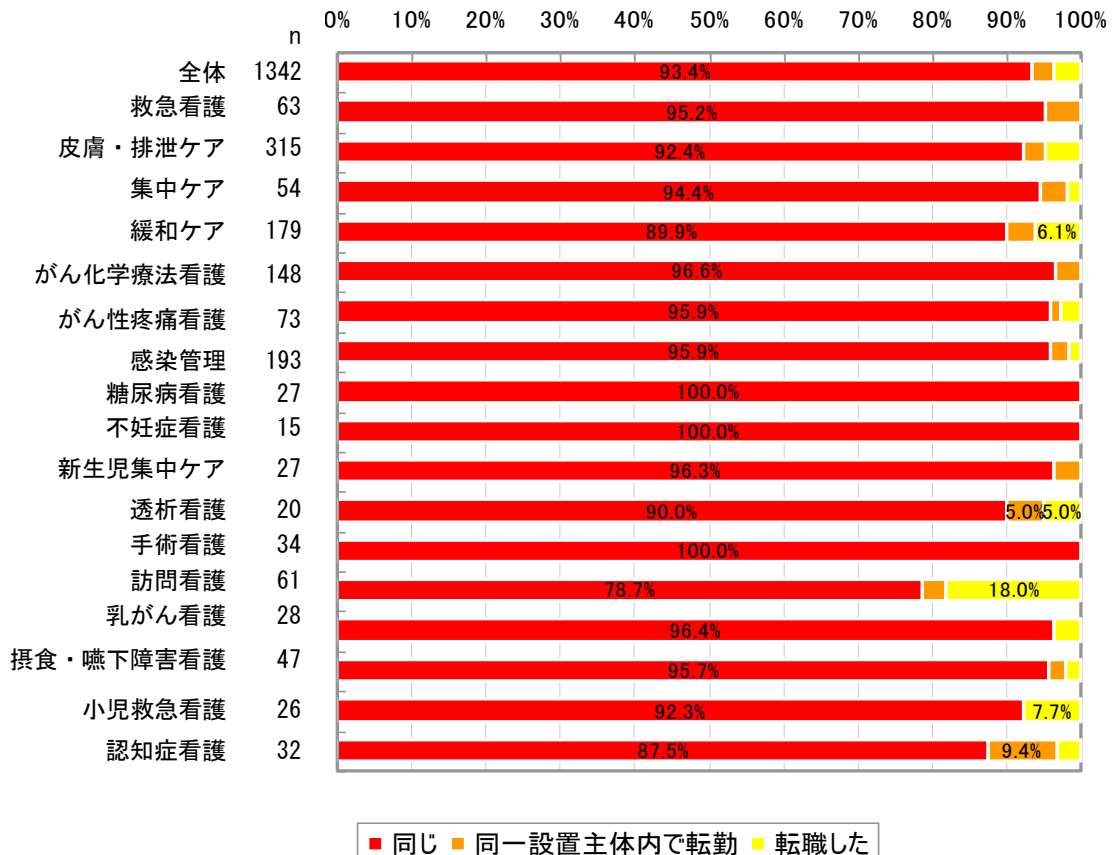
分野別にみると、「不妊症看護」は「1000床以上1500床未満」が50%で最も多かった。「300床未満」の施設に勤務している者は、「訪問看護」が36.4%で最も多く、次いで「認知症看護」が33.3%、「緩和ケア」が28.4%であった。「新生児集中ケア」は全員が300床以上の施設に勤務していた(図22)。

4. 資格取得後の変化について

1) 所属施設の変化



<図23. 資格取得後の所属施設の変化(全体)>

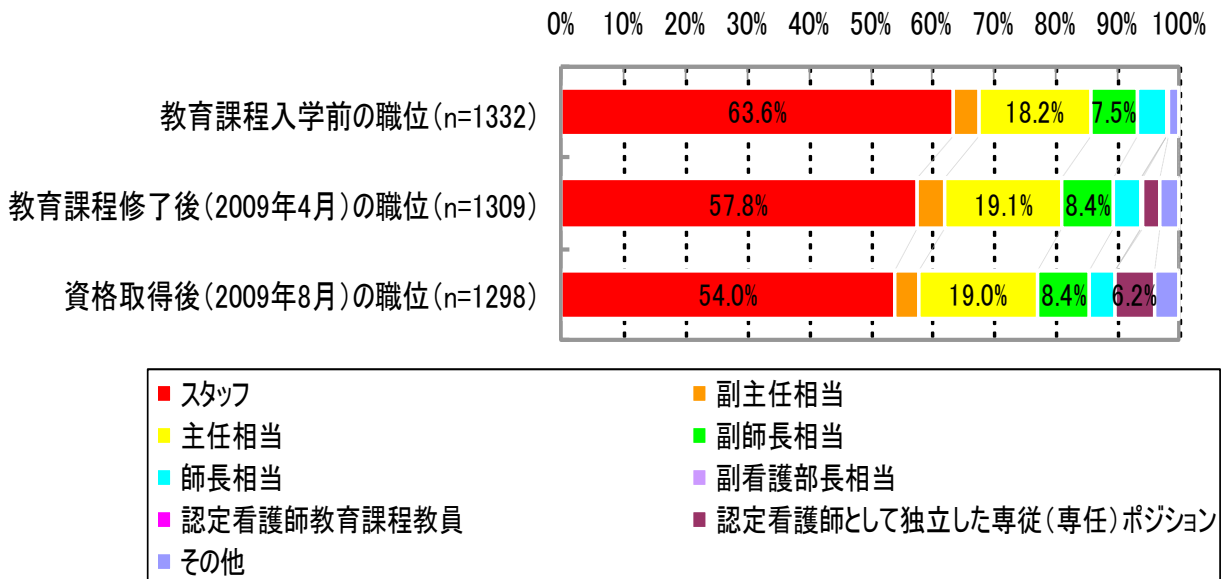


<図24. 資格取得後の所属施設の変化(分野別)>

認定看護師資格取得後の所属施設は、全体では「同じ」が93.4%で最も多かった。「転職」と「転勤」は合わせて約7% (89名)であった(図23)。

分野別にみると「糖尿病看護」「不妊症看護」「手術看護」は100%が「同じ」であった。「転職」が最も多かったのは「訪問看護」で18.0%であり、次いで「小児救急看護」7.7%、「緩和ケア」6.1%であった。「同一設置主体内で転勤」が最も多かったのは「認知症看護」で9.4%であった(図24)。

2)職位の変化



<図25. 資格取得前後の職位の変化(全体)>

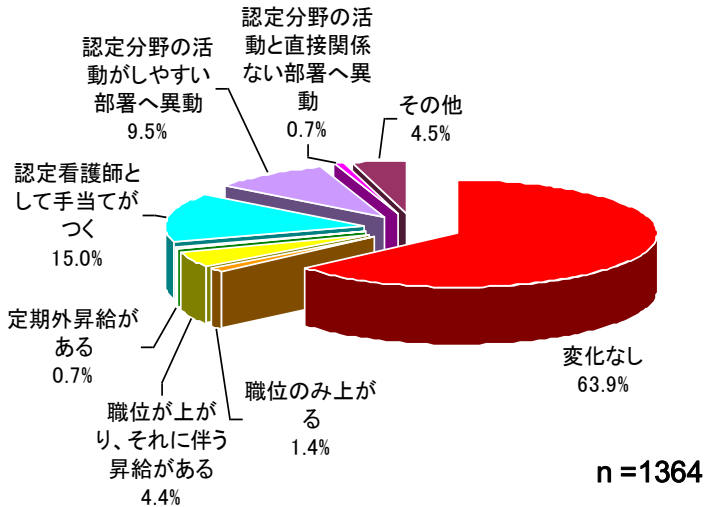
認定看護師教育課程入学前の職位は、「スタッフ」が63.6%、「主任相当」が18.2%、「副師長相当」が7.5%、「独立した専従(専任)ポジション」が0.2%であった。

認定看護師教育課程修了後の職位は「スタッフ」が57.8%、「主任相当」が19.1%、「副師長相当」が8.4%、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が3%であった。

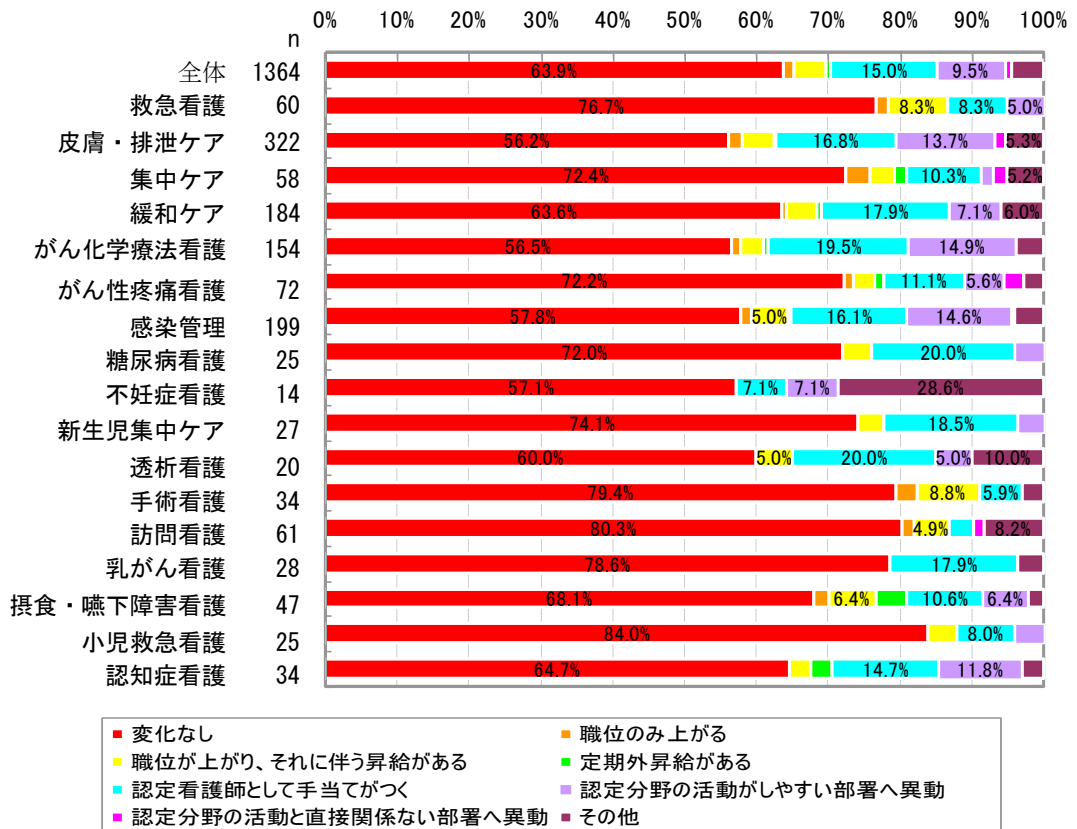
認定看護師資格取得後の職位は「スタッフ」が54.0%、「主任相当」が19.0%、「副師長相当」が8.4%、「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が6.2%であった。

全体的な変化を見ると、認定看護師資格取得前後で、「スタッフ」の割合が減少し、「主任相当」「副師長相当」の管理職、および「認定看護師として独立した専従(専任)ポジション」が増加していた(図25)。

3)勤務条件・給与待遇の変化



<図26. 資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化(全体)>

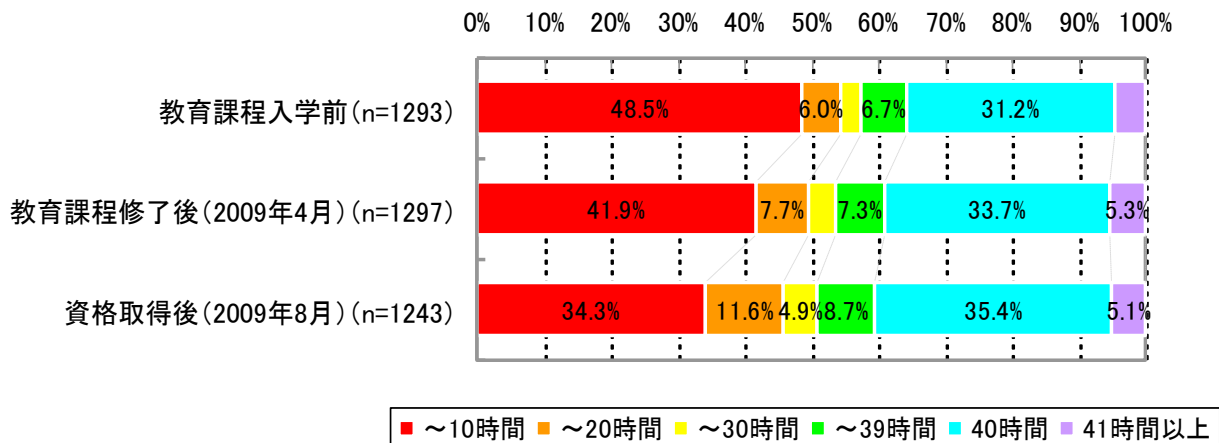


<図27. 資格取得後の勤務条件・給与待遇の変化(分野別)>

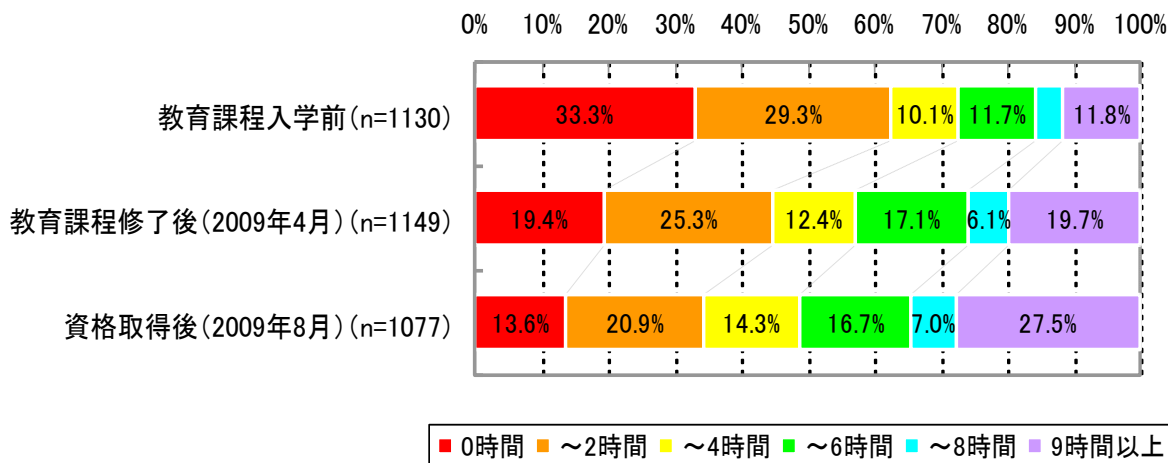
認定看護師資格取得後の勤務条件・給与待遇は、全体では「変化なし」が63.9%で最も多かった。次いで、「認定看護師として手当てがつく」が15.0%、「認定分野の活動がしやすい部署へ異動」が9.5%、「職位が上がり、それに伴う昇給がある」が4.4%であった(図26)。

分野別にみると、「認定看護師として手当てがつく」が最も多かったのは「透析看護」で20.0%、次いで「がん化学療法看護」で19.5%であった。「認定分野の活動がしやすい部署へ異動」が最も多かったのは「がん化学療法看護」で14.9%、次いで「感染管理」で14.6%であった。「変化なし」が最も多かったのは「小児救急看護」で84.0%、「訪問看護」で80.3%であった(図27)。

4) 認定看護分野での実践時間数の変化



<図30. 資格取得前後の勤務時間内における認定看護分野での実践時間数の変化(全体)>

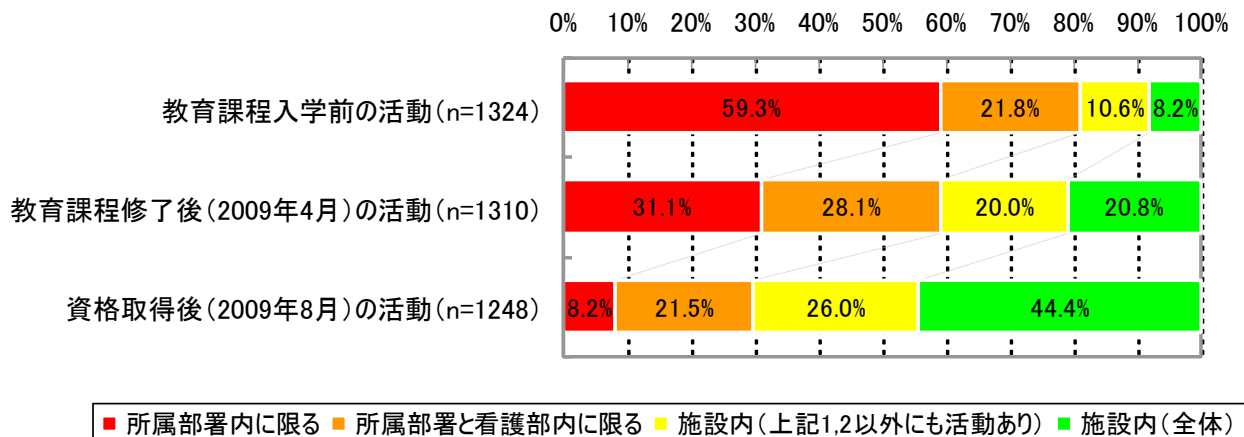


<図31. 資格取得前後の勤務時間外における認定看護分野での実践時間数の変化(全体)>

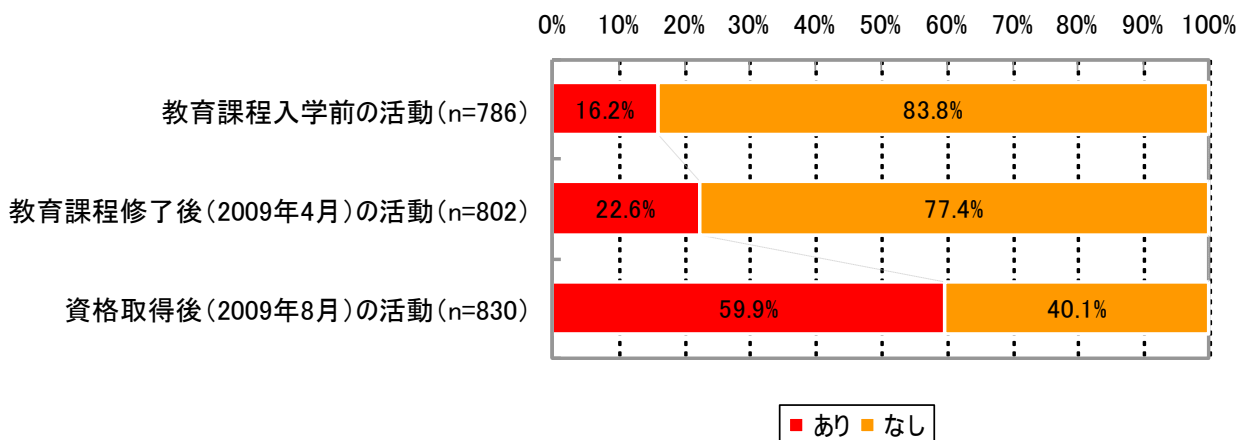
勤務時間内における認定看護分野での実践時間数(週単位)は、教育課程入学前は「10時間以下」が48.5%であり次いで「40時間」が31.2%であったが、資格取得後にかけて、「10時間以下」が減少し、10時間を越える実践時間数が増えている。特に、「10時間を越え20時間まで」は入学前から資格取得後で約2倍となっている(図30)。

勤務時間外における認定看護分野での実践時間数(週単位)は、教育課程入学前は「0時間」が33.3%であり、次いで「~2時間」が29.3%であったが、資格取得後にかけて、「0時間」および「~2時間」が減少し、「~4時間」を超える実践時間数が増えている。特に、「9時間以上」は入学前から資格取得後で2倍以上になっている(図31)。

5)活動範囲の変化



＜図32. 資格取得前後の施設内の活動範囲の変化(全体)＞

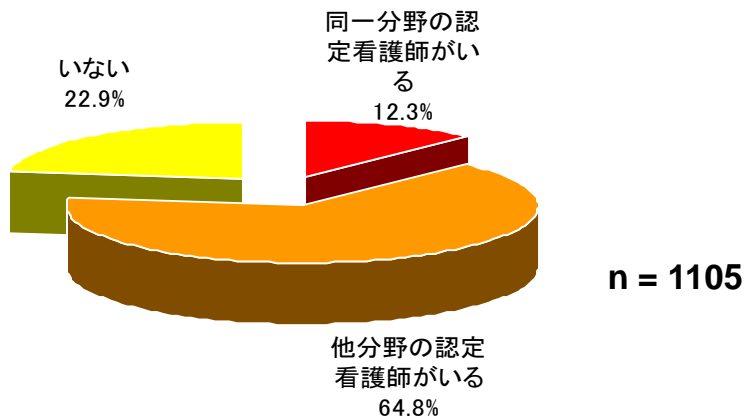


＜図33. 資格取得前後の施設外地域活動の変化(全体)＞

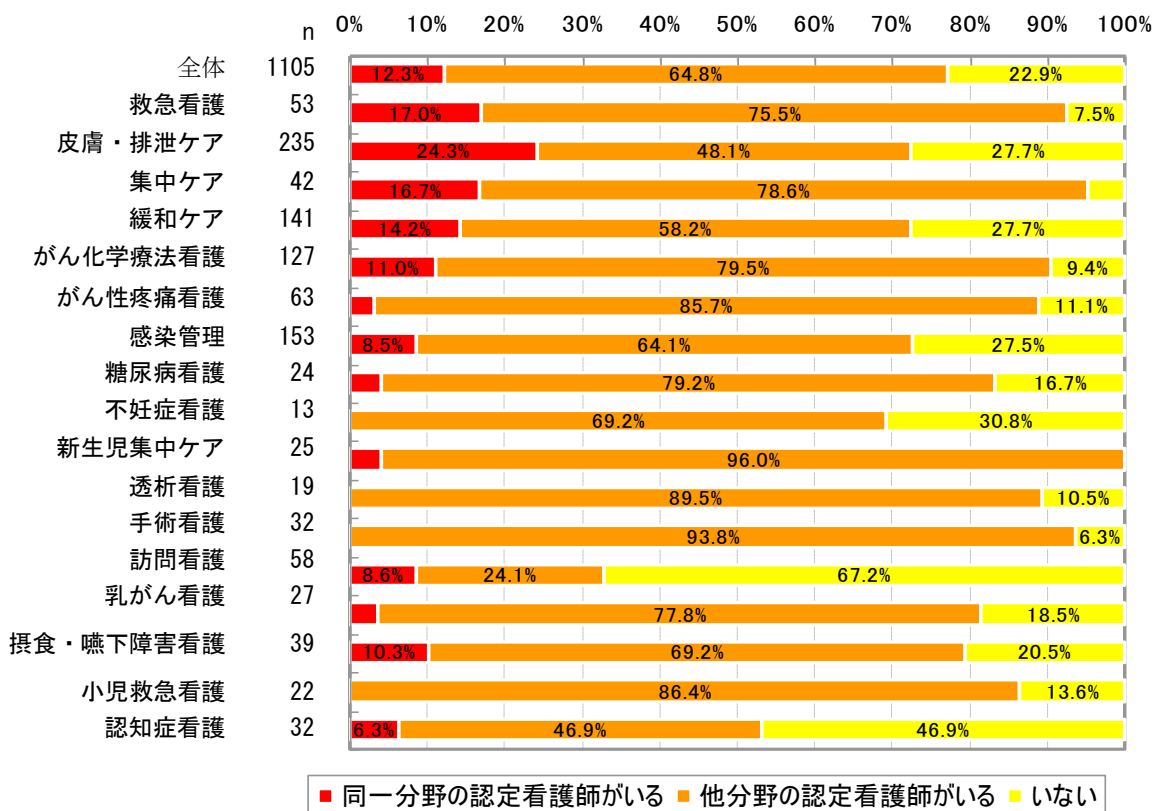
所属施設内における活動範囲は、認定看護師教育課程入学前は「所属部署内に限る」が59.3%、「施設内(全体)」が8.2%であるのに対し、認定看護師教育課程修了後では「所属部署内に限る」が31.1%、「施設内(全体)」が20.8%、資格取得後には「所属部署内に限る」が8.2%、「施設内(全体)」が44.4%となり、資格取得前後では活動範囲が拡大している(図32)。

所属施設外における活動範囲は、認定看護師教育課程入学前では「あり」が16.2%であるのに対し、認定看護師教育課程修了後では22.6%、資格取得後には59.9%と増加しており、施設外においても活動範囲が拡大している(図33)。

4) 所属施設の認定看護師数について



<図28. 所属施設内の認定看護師の有無(全体)>

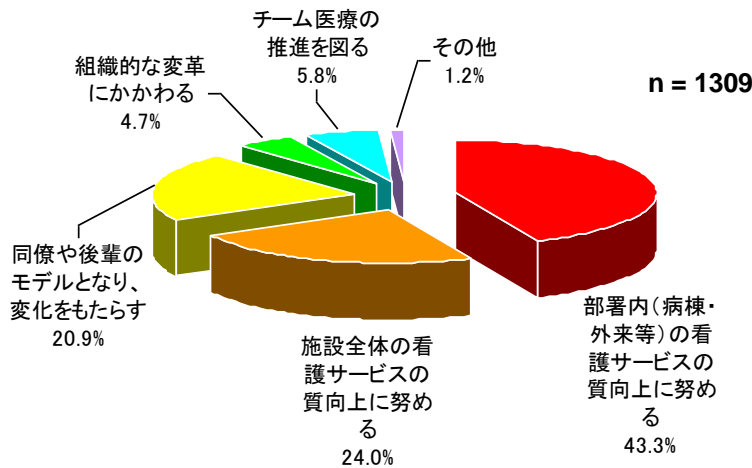


<図29. 所属施設内の認定看護師の有無(分野別)>

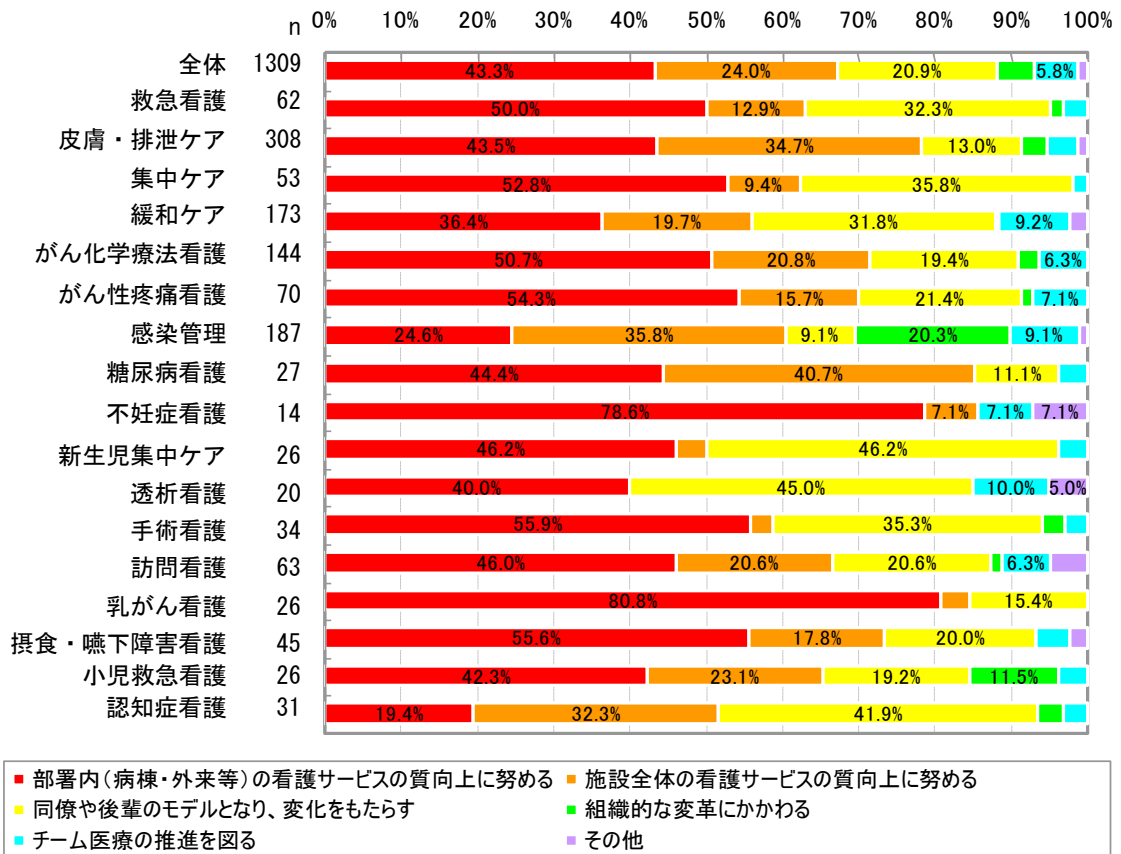
所属施設の認定看護師数について、全体では所属施設内に「他分野の認定看護師がいる」が64.8%で最も多く、「同一分野の認定看護師がいる」は12.3%であった。
 分野別にみると、所属施設内に「同一分野の認定看護師がいる」のは「皮膚・排泄ケア」が24.3%で最も多く、次いで「救急看護」が17.0%、「集中ケア」が16.7%であった。

5. 今後の活動について

1) 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動



＜図34. 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動(全体)＞

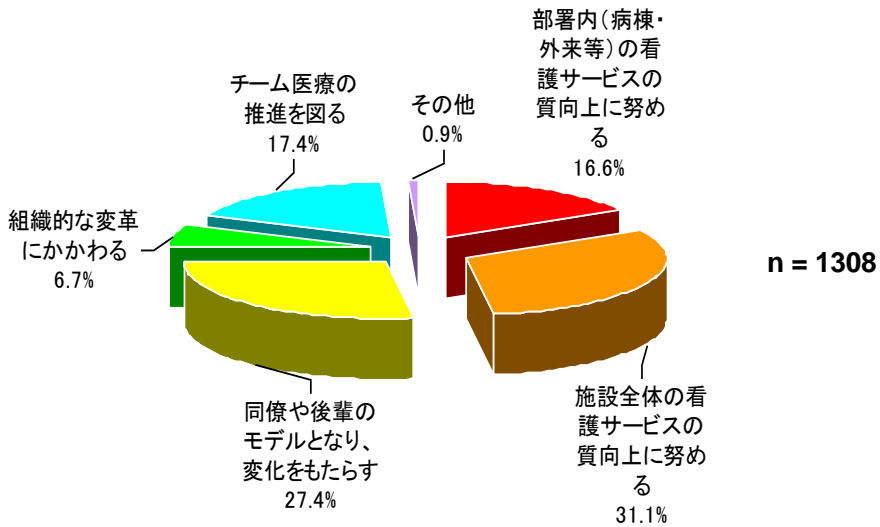


＜図35. 今後5年間で、最も力を入れて取り組みたい活動(分業別)＞

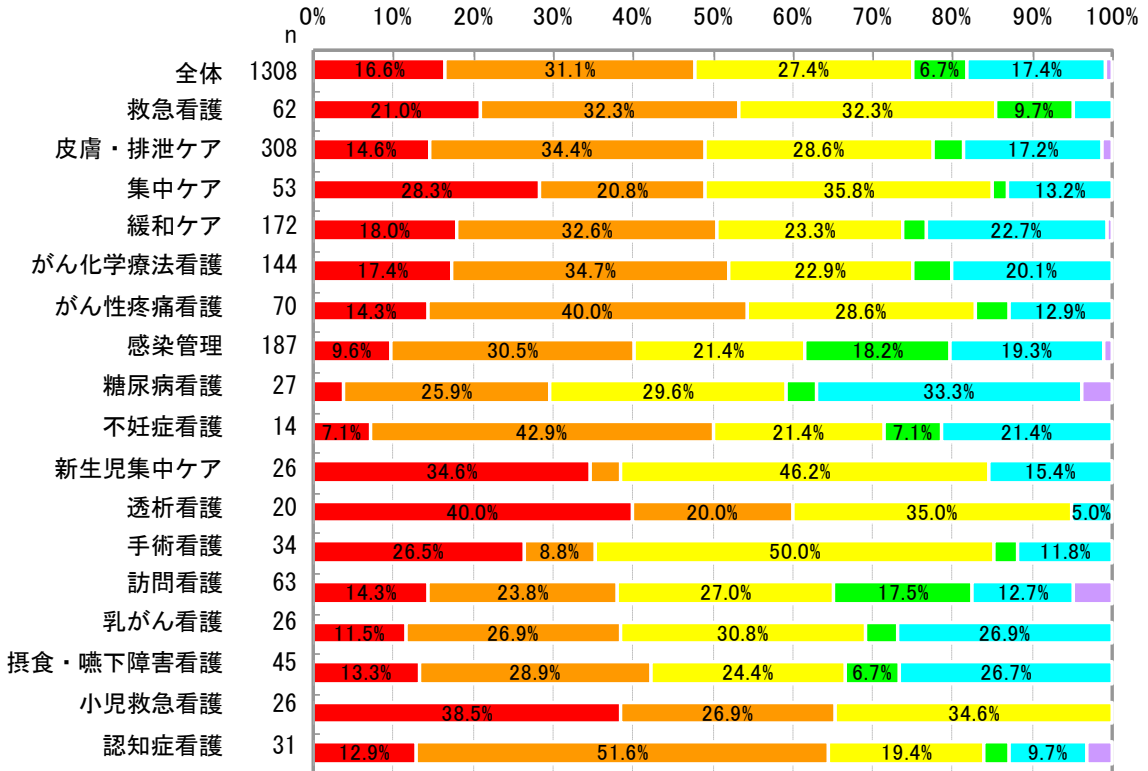
今後5年間でも最も力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち優先順位の最も高いものについて回答を求めたところ、「部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める」が43.3%でもっとも多かった(図34)。分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「乳がん看護」で81%、「不妊症看護」で79%であった(図35)。

次いで「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が24.0%で多く(図34)、分野別にみると、同項目を多く選択していたのは「糖尿病看護」で40.7%、「感染管理」で35.8%であった(図35)。

2)今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動



<図36. 今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動(全体)>



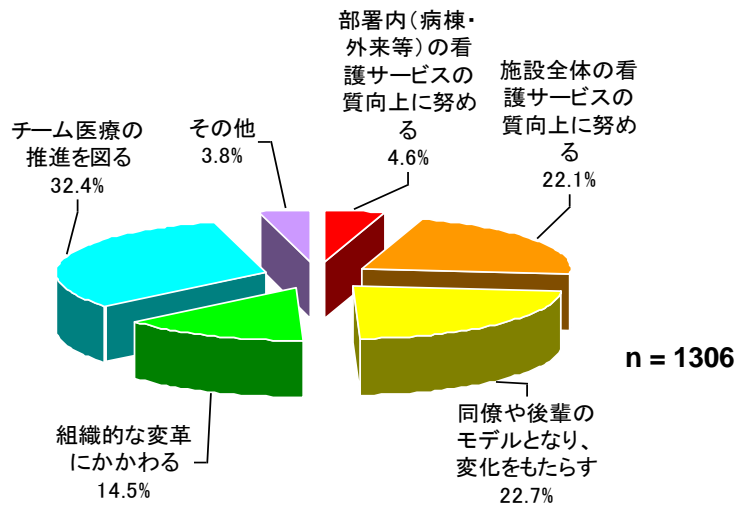
- 部署内(病棟・外来等)の看護サービスの質向上に努める
- 施設全体の看護サービスの質向上に努める
- 同僚や後輩のモデルとなり、変化をもたらす
- 組織的な変革にかかわる
- チーム医療の推進を図る
- その他

<図37. 今後5年間で、2番目に力を入れて取り組みたい活動(分野別)>

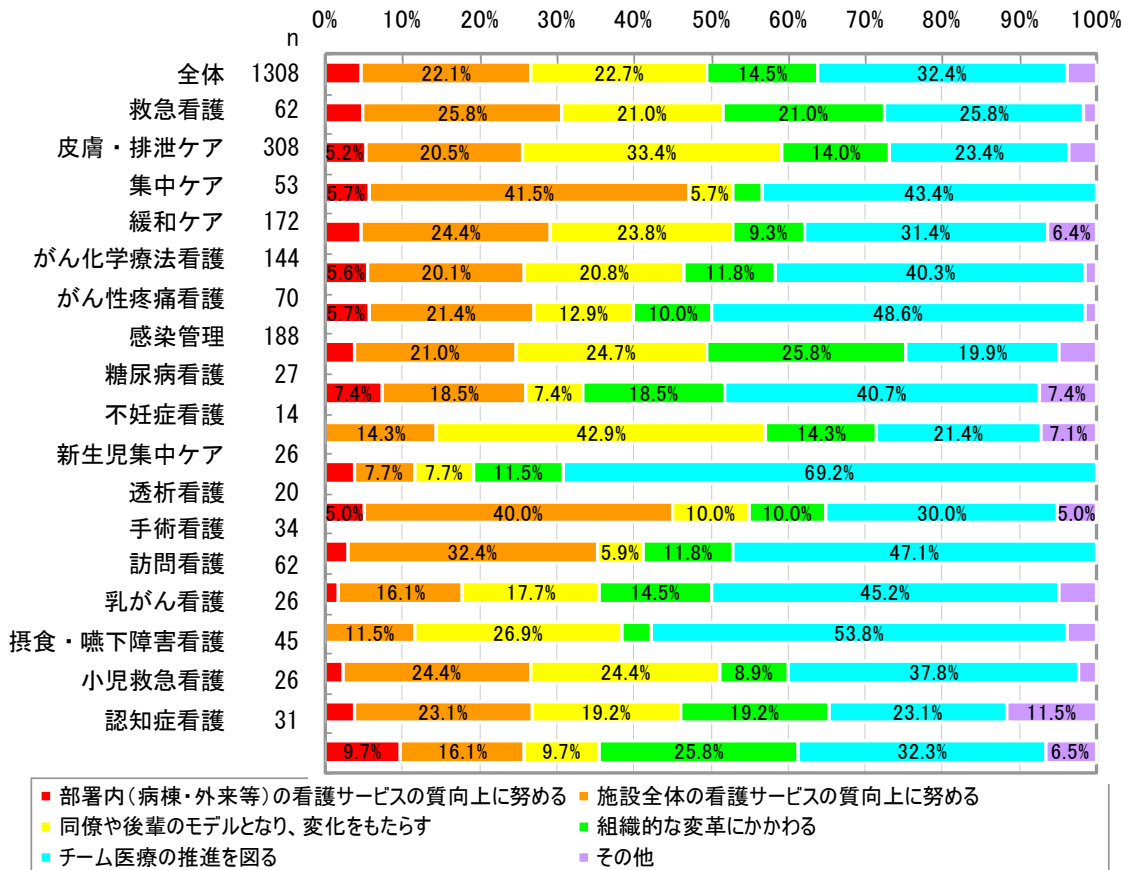
今後5年間でも2番目に力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち優先順位が2番目に高いものについて回答を求めたところ、「施設全体の看護サービスの質向上に努める」が31.1%で、最も多かった(図36)。

分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「認知症看護」で51.6%、「不妊症看護」で42.9%、「がん性疼痛看護」の40.0%であった(図37)。

3)今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動



<図38. 今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動(全体)>



<図39. 今後5年間で、3番目に力を入れて取り組みたい活動(分野別)>

今後5年間で3番目に力を入れて取り組みたい活動について、5項目のうち、優先順位が3番目に高いものについて回答を求めたところ、「チーム医療の推進を図る」が32.4%と最も多かった(図38)。

分野別にみると、同項目を多く選択していたのは、「新生児集中ケア」で69.2%、「乳がん看護」で53.8%、「がん性疼痛看護」で48.6%であった(図39)。

6. 考察

1) 医療機関等の認定看護師への理解

認定看護師教育課程在学中の処遇としては、「出張」「研修」の割合が 78.6%であり、給与の支給状況については「基本給のみ支給」を受けていた者がほぼ半数、さらに賞与は「全額支給あり」が 71.1%であった。認定者らは認定看護師教育を受けることについて、ある程度所属施設から支援を得られていることがわかる。

しかし、所属施設から認定看護師教育受講への支援はあるものの、認定看護師資格取得後の勤務条件・給与待遇については「変化なし」の者が 63.9%であった。一方「認定看護師としての手当がつく」者は 15%、「認定看護分野の活動がしやすい部署へ異動」した者は 9.5%、「職位が上がり、それに伴う昇給がある」者が 4.4%、「定期外昇給がある」者が 0.7%であり、勤務条件・給与待遇が向上した者は 3割にすぎない。

処遇面の向上はあまり見られないにも関わらず、認定者らの「勤務時間内における認定看護分野での活動時間」は増加し、さらに、「勤務時間外における認定看護分野での実践時間数(週単位)」も「9時間以上」におよぶ者が教育課程入学前の 11.8%から資格取得後の 27.5%に急増している。活動範囲も「所属部署内に限る」が資格取得前はほぼ半数であるが、資格取得後は「施設内(全体)」で活動する者がほぼ半数に取って変わっている。

以上から、認定看護師認定者らは、資格取得までにある程度の支援は得られている。しかし認定後は活動時間と活動範囲を拡大しているにも関わらず、処遇面での向上があまり見られない状況である。資格取得までの支援が得られるようになってきていることは、認定看護師らの活動が評価され、診療報酬に反映されていること等による成果が一因と考えられる。今後は、認定者らの認定後の処遇向上に向けた方策を検討する必要があるだろう。

2)「訪問看護」分野の状況

「訪問看護」分野は退職して入学した者が約 2割に及んでおり、在学中に無給である者が 23.0%、賞与の支給が無い者が 34.4%であり、所属施設から支援を得ている者が最も少なかった。さらに、退職者が 2割であるため、資格取得後の転職者はほぼ 2割であり、勤務条件や給与待遇の変化がないものが 8割で資格取得後の処遇の向上も少なかった。当該分野については、認定看護師教育に関する訪問看護ステーション等の施設の理解を求めたいところであるが、訪問看護ステーションは小規模施設が多く、経営的にも人的にも資源が限られているため、研修受講者への資格取得以前の支援が困難であることが推測される。

そこで、当該分野の認定看護師教育を受講しやすくするための方策として、「分散型の教育形態をとる認定看護師教育課程」の普及が挙げられよう。受講者本人の負担が大きいと予測されるものの、認定看護師教育課程受講中の受講者の金銭面の問題、訪問看護ステーションの資源上の問題等をクリアできるため、勤務を継続しながら認定看護師教育を受講できる体制があることは有意義であると考ええる。なお、現在、「訪問看護」分野において、分散型の教育形態をとっているのは「聖路加看護大学実践開発センター」のみであるが、64.7%もの受講者が「常勤(開講日以外は通常勤務)」となっていた。

当該分野については、今後、認定看護師希望者の教育受講に対する支援策を検討する必要があるだろう。